

キエフ市からの親善使節

—— シロフクロウ と ソウゲンワシ ——

9月2日、姉妹都市キエフ市（ソ連邦ウクライナ共和国）から、キエフ市長を団長とする代表団一行21人が親善のため、遠路はるばる京都市を訪れました。キエフ動物園長にとまわって、シロフクロウ1番とソウゲンワシ1番もやって来ました。



両市長によるテープカット

キエフ市から京都市民の皆様へ贈られたこの鳥たちは、慣れない長旅にもかかわらず元気で無事動物園に到着、直ちに計測と検疫処置を行ない準備された新居に放し、餌を与え落着かせました。



シロフクロウ



ソウゲンワシ

新居に慣れる間もなく4日には、代表団を迎え、収容舎に紅白の幕を張りめぐらして、この鳥たちの贈呈式が行なわれました。その後は、心配された環境にもすっかり慣れて、マウス、馬肉、アジ、鶏頭などをよく食べています。

この親善使節の受入に当たり、両市の親善交歓の実をより一層意義深いものとするため、キエフ市動物園長をかこみ当園の職員と座談会をもちました。キエフ市動物園の概略を園長から手ぶりをまじえて話していただき、贈呈を受けた珍鳥シロフクロウなどに関する質問に対しても懇切に説明していただきました。また、京都市からの親善使節として46年12月にタヌキ1番と一緒にキエフ市へ贈ったニホンジカ1番の間に、今年の春、子供が生まれ

たという楽しいニュースも聞かせてもらい動物の話ならいつまでも話のつきないという感じの園長さんでした。

贈られたシロフクロウとソウゲンワシは、現在日本の動物園には飼育されていない珍しい鳥たちです。

シロフクロウは、その名のとおりの美しいフクロウです。ワシミズクに次ぐ大きさで全長は約60cmあります。雄は肩や翼に淡褐色の斑点が少しあるほかは全身白色ですが、雌は顔、のど、あしだけが白色で、他の羽毛には褐色の斑点が一面にあり、フクロウとしては珍らしく雌雄で羽毛の色が違い、雌は雄よりも大きい鳥です。寒い北極圏のツンドラ地帯に生息しているため足趾にまで羽毛が生えています。小山や岩山の散在する開けた半荒地で、レミング（ネズミの一種）や他の齧歯類、ウサギ、ライチョウなどを常食としています。レミングは周期的に増減するためシロフクロウもそれに応じて増減、レミングが激減する何年か毎にシロフクロウの分布域はずっと南下することがあり、日本でも迷鳥として発見されることがあります。このフクロウは野生のひなを捕えて来てキエフ動物園で4年間飼育していたものです。



園内見学（向って左市長・右園長）

ソウゲンワシは、イヌワシの仲間でもヨーロッパ南部、シベリア、モンゴルなどのステップ（樹木のない大草原）、半荒地に生息し、主に齧歯類（ネズミ）を捕えて食し、鳥や爬虫類もまれに食べます。地上での生活時間の長い鳥です。シロフクロウと同様、雌の方が雄より大きい鳥です。キエフ動物園で6年飼育していたものです。この動物たちを通じて、ますます両市間の友好が深められることを願って、いつまでもこの鳥たちを飼育したいものです。（K.M.）

サマースクールを ふりかえって



8月のはじめ、じりじりと夏の太陽が照りつける動物園の一隅。おとぎの国からにぎやかな子供たちの歓声が沸き上がっています。夏休みの恒例行事「サマースクール」に参加した子供たちの声です。

昭和47年から始まったこの行事も今年で3回目となり、100名を越える参加者で行なわれた第1回サマースクールに比べて、今回は応募者が500名近くとなり、3日間の予定を急ぎよ5日間にするなど、市内小学生の皆さんには、すっかりおなじみの行事となりつつあるようです。

私たちは、この「動物園だより」でもたびたび強調してきたこと、すなわちレクリエーション、自然保護、研究の場として、さらに楽しみながら学ぶ場としての動物園づくりとを考えてきましたが、その第1歩に小学校4～6年生を対象にして実施してきたのが、このサマースクールです。

これまでやってきた基本は、「働くなかで、働くことの楽しみを学び、新しい知識を実物を通して、つかんでもらうこと」としています。ですから午前中は各班に分れての動物飼育実習、午後からは担当した動物たちとの自由交流、テーマ学習と続く日程は変わっていません。

それでは、みなさんと一緒に今年のサマースクールのぞいてみましょう。

当日の受付開始、午前9時には、腰タオルに麦藁帽子、ゴム長靴の子供たちの姿が、あちらこちらと走り

まわっていますが、おしゃれ好きなのは(?)現代っ子たちのこのいでたちは、たのもしいかぎりです。

開会の挨拶もそこそこに会場のおとぎの国へ。50人ずつの2班に分れてから、それぞれの自己紹介。市内小学校の寄りあい世帯の初対面同志ですが、そこは元気なもの。「はい」「僕は学校の飼育班の園長です。本場でしっかり勉強するつもりです。」「私は3年連続して、参加しています。来年は中学生なので今年が最後です。」「しっかりがんばります。」「

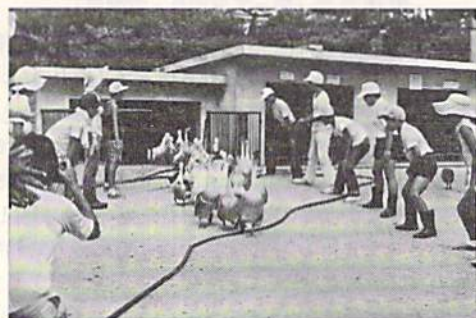
各班の担当する動物は次のようになっています。

- 1. ヤクシマヤギ、フンボルトペンギン、ハト
- 1. ロバ、ウシ、メンヨウ、オオコウモリ、ハト
- 1. ウサギ、モルモット、アカゲザル、フクロウ
- 1. アヒル、ガチョウ、リスザル、カメ

各班が一斉に飼育実習にとりかかった園内のにぎやかなこと。40頭のヤギの手入れ。まず掃除ですが、掃除にとりかかるよりも、その道具が大変。タケボウキ、クマデ、そしてスコップ、フォーク、リヤカー。みな大きく、重い。居間兼寝室兼便所に収容されていたヤギたちを広い園内に解放してやった後の小屋は、「クサイノダ」。女子大生のアシスタントに誘導されて室に入ったものの、たちすくんでしまう者、クマデがさかさまになっている者。……でも自称「小さな園長さん」がフォークに突きさした寝糞を「エイッ」と持ち上げた途端に、ハク、カキヨセル、ハコブ、ノセルとスムーズな流れ。もう尻込みしていたA君も黙ってはおれません。

あちらでは、うまれたてのモルモットとウサギの赤ちゃんが糞の中にいました。モルモットの赤ちゃんはチョロチョロと走り、ウサギは丸裸。皆の目は「どうしてこんなに違うのかなー」と真剣に考えていました。

ロバの餌は人蔘や穀と違う粒状のペレットです。ガラガラッと計量しながら「宇宙食や」「これで腹一杯になるやろか」とわいわい。手入れの最後に、両手一杯に持った糞と草を、水洗いでさっぱりした床の上にひろげた子供たちが口々に言います。「いいにおい」





「今日はここで寝るよ」そしてその上に大の字になってタヌキ寝入りするM君。

動物たちとの自由な交流にあきない子供らに、昼食、休憩を知らせた後に私たちも一息。

ヤギの乳しぼり、大型インコやサルの水浴、ロバ、ウシのブラッシング等はアンケートの数字にも示されているように人気の的でした。



藤棚やテントの下での学習。人間の歩く時の手足の動き、ヤギ、イモリの四肢の動きはみんなよく似ている。爬虫類館からおめえしたヘビの仲間の移動の方法は？。骨格標本などの資料と実物の動物とを組合せた50分は動物園だけで出来る学習でしょう。

最後に参加者の皆さんにアンケートでの回答を寄せてもらいましたので、みてみましょう。

1. 動物の世話についてどう感じましたか

おもしろかった	281名 (87%)
いやだった	13名 (4%)
まあまあ	32名 (9%)

2. またやりたいと思いますか

またやりたい	319名 (98%)
もうやりたくない	8名 (2%)

動物の世話といっても、子供たちが自由にプロジェクトした上での作業ではなく、お膳立したご馳走を次々につまみぐいさせているような一面があります。しかし、初めて触れる子供たちは、そのほとんどが満足しています。

3. おとぎの国で好きな動物は

各学年ともウサギ、モルモット、サルの赤ちゃん

が、共通してあげられていますが、女子はウサギの方が、男子はモルモットの方が人気者です。なおいやがられている動物の数はすくないのですが、各学年共通してヘビがあげられています。

4. テーマ学習について

おもしろかった	195名 (80%)
おもしろくなかった	2名 (1%)
まあまあ	47名 (19%)

2日目の雷雨で学習が中断されたことについて、子供たちの卒直な指摘があったように、動物園での普及活動のセンター（建物）の実現が、いまこそ必要だと痛感します。また動物の体の中を知りたいなどの意見がありましたが、生きた動物資料の展示のみならず、斃死した動物の骨格や、その他の資料の蓄積が、写真、映画などの資料とあわせて、急がなければなりません。

5. 家で動物を飼っていますか

飼っている	120名 (43%)
飼っていない	157名 (57%)

約半数に近い子供たちが家でなんらかのペット、動物を飼っています。イヌ、ネコ、セキセイインコ、キンギョをはじめとするいわゆるペットの他に商業ベースにのったところのカブトムシなどが、その主体です。「紙屋川で取ってきた名も知らない魚」などの私たちの身のまわりの小動物を飼育、観察するという動物飼育がほとんど見られないことは、ただ「都市化された」からでは片付けたくない問題のように思われます。最後に子供たちの自然というか、動物に対する認識のひろがりを知る手がかりとして、10分間で自分の知っている動物名を書きあげてもらいました。記載数は次の通りです。

4年生	男子平均48種	女子平均52種
5年生	男子平均43種	女子平均46種
6年生	男子平均58種	女子平均61種

なお記載された種類の比率は次のようなものでした。

哺乳類35%、鳥類21%、爬虫両生類9%、魚類10%、節足動物16%、軟体動物2%、その他7%。

各学年毎、男子と女子のちがいがなどについて結論づけることは難しく、個人差が大きいのが特徴でしょう。チョウの種を30種も書きあげる児童、猫科の動物、カラカル、ホブキャットなど13種も続けた子などに驚ろき、ツチノコ、ネッシーに苦笑し、ピーター、コロちゃん、ヘドロに首をかしげた集計作業でした。

これらの集計資料、意見とあわせて、よりすばらしいサマースクールのためにも、読者の皆さんのご意見をお寄せいただくことを願って、この稿を終りたいと思います。

(I・K)

動物豆知識

食物連鎖

最近、新聞紙上など環境破壊に関連した記事の中に「食物連鎖」という言葉が使われているのを見かけます。今回は、その言葉について述べます。

イギリスの生態学者チャールズ・エルトン氏は、生物が生命をささえるために相互の間に、食う食われるの争いが連鎖していることに気づいて、これを体系化しました。

太陽の光エネルギーを吸収して成長する植物は、生物の栄養源となるので生産者と呼ばれます。草や木、その他の植物は一次消費者と呼ばれる草食動物（カモシカ・シマウマなど）によって食べられ、彼らのエネルギーとなり、彼らは二次消費者と呼ばれているヒョウ・ライオンなどに食べられて、新しいエネルギーとなります。肉食動物はこの連鎖のメンバーの最終となりますが、やがて死亡し、土の中でバクテリア菌類によって分解され植物の養分として吸収されます。太陽の光エネルギーは再び植物にとり入れられて、前回と同じ経路をたどって循環し

ます。このようにエネルギーと物質の循環の経路が「食物連鎖」と呼ばれています。

こん虫がカエルに食べられ、カエルがヘビに飲まれるつながりや、藻やプランクトンを食べて成長する幼魚は大きな魚に食べられ、さらに大きな魚は、ヒトに食べられる関連も、一定地域内で行なわれている「食物連鎖」です。

連鎖という言葉は順序よく並べた鎖を連想しますが、実際は整然と並べたものではなく、環境とか季節によって食性が変化したり、順応したりして複雑なしくみになっています。

生物の数には一定の法則があり、底辺は生産者、その上に一次消費者さらに二次三次というように上へいく程に、個体は大きくなりますが、数はピラミッドのように少なくなります。食うものは食われるものより数が少ないという関係を示しています。

自然は、個体数のバランスをうまくコントロールしていますが、人類が環境を破壊したり乱獲したりすることによって「数のピラミッド」のバランスが崩れ、種族の滅亡を招く結果となります。一人一人が自然保護の精神を身につけて、絶滅の恐れのある生物を守ることに努めてもらいたいものです。

(T・W)

できごと

※6月28日

アメリカのフィラデルフィア動物園から、親善のためにアメリカオシ3番と、アメリカヒドリ3番が送られてきました。正面の大水禽舎で一般公開しています。

※8月1日

昭和38年から飼育されていたニホンカモシカのメス（スズコ）が、肺炎のため死にました。飼育期間は11年4カ月で大へん長生きでした。

※8月1日～7日

動物園水族館週間にちなんで、第3回サマースクールとガイドツアーが開催されました。サマースクールは4・5・6年生を対象に1～3日と、20・21日の2回に分けておこなわれ、約500名の参加がありました。またガイドツアーは4・5の両日、午前、午後の2回に分けておこない、好評を博しました。

※9月4日

姉妹都市キエフ市からの親善動物、ソウゲンワシ1

■ 第11号の発行は1月5日（日）の予定です

■ 定期購読を希望される方は80円（1年分）を同封して動物園技術課までお申し込みください。

つがい番とシロフクロウ1番の贈呈式が行われました。船橋、グーゼフ両市長のほか公式訪問団の方々や永観堂幼稚園のよい子たちなど多数が参列しました。

※8月16日、9月4日

レッサーフラミンゴ5羽（8月）とジェームズフラミンゴ3羽（9月）が新しく仲間入りしました。これで世界のフラミンゴ6種のうち5種が集まり、総勢35羽の大世帯となりました。

※9月18日

ニホンカモシカが1頭うまれました。母親はツルコで、第9回目の出産です。性別はオスで、お母さんのお乳をのんで元気に育っています。

※7月1日～9月10日の間開催されました京都市児童動物画コンクールの優秀作品が決まりました。京都市長賞は下記の方々です。なお優秀作品は15～18日の間園内に展示されました。

- | | |
|----------------|--------------|
| ・北白川校1年 はらだ まき | ・光華校4年 手島 利親 |
| ・有済校 1年 ふなきなおこ | ・北白川校4年 桜田孝之 |
| ・〃 2年 中村 英生 | ・有済校5年 井上 佳美 |
| ・成逸校 2年 ばんぼうこ | ・〃 5年 好川美津子 |
| ・北白川校3年 西 洋子 | ・〃 6年 井上小百合 |
| ・有済校 3年 藤原 智子 | ・〃 6年 藤本 光市 |